

平成 23年度 学校自己評価表 (1)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の 重点目標	1 基礎的な学力の保障 2 進路実現のための進路指導体制の充実 3 基本的な生活習慣の確立 4 地域貢献活動の推進 5 国際交流活動および国際理解教育の充実
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基礎的な学力の保障	○進路実現のための十分な学力がっていない。 ○進路にあった科目選択ができていない生徒もいる。	○基礎学力の定着のための取り組みの強化 ○きめ細かい指導を行い、学ぶことの楽しさや達成感を得させる。 ○効率的な教育課程の作成。	○家庭学習時間を増やし、定期テスト・課題テストへの参加科目を増やす。 ○全教員が授業評価を年2回実施し、授業公開週間に授業公開をする。 ○総合学科の特色を生かしつつ進路実現に対応できる教育課程の作成。	○生活[学習]時間調査を年3回実施し、学習時間の確保に活用する。 ○同じ評価項目・評価基準を設け、授業評価を行う。 ○各教員は授業公開週間に2度授業観察をする。 ○進路実現に即した平成24年度教育課程を7月中に作成する。	○生活[学習]時間調査を定期考査前に3回実施し、集計結果を生徒に示しただけに終わっているため、綿密な分析が必要である。 ○全教員が年2回の生徒による授業評価を実施した。 ○24年度入学生より、系列を明確にした教育課程の編成ができた。 次年度以降も生徒の実態に合わせ、検討を行っていく必要がある。	B	○新年度より設置が予定されている学習委員会の場などで、分析結果を検討し、生徒の学習への意欲向上に向けて検討していく必要がある。 ○授業アンケートの内容を精査していく。 ○各系列内での必修科目について、実効的なものとなっているかを検証し、更なる検討を続けていく。
2 進路実現のための進路指導体制の充実	○学年主導の部分が大きく、組織的な進路指導が十分機能していない。 ○進学指導、就職指導が十分体系化されていない。 ○総合部と進路部の連携が十分取れていない。	○3年間を通した計画的・組織的な進路指導体制を構築する。 ○進路情報交換会の充実。 ○キャリア教育との連携。	○推薦文指導・小論文指導講習会の実施し教員の指導力を高める。 ○各学年の進路情報交換会を充実させる。3年次生は年3回実施する。 ○進路未決定者を前年比半減させる。	○模擬試験・長期休業中の講習等へ積極的な参加を呼びかける。 ○進路に関する情報を整理し、生徒・保護者・担任等に適切な情報を提供する。 ○総合部・教務部と連携して産業社会と人間・総合学習・LHRの時間の有効利用を行う。	○年間通して模試・講習を実施した。担任をはじめ多くの先生方の協力もあって実績をあげることができた。 ○全学年で進路情報交換会を実施し、効果的な情報提供を行うことができた。 ○志望理由ノートの導入等、LHRの時間を利用して進路に対する意識を高めることにできた。	A	○模試の精選や受験科目・事後指導などを取り組み、学力向上を図る。 ○1・2年生の進路情報交換会をもとに科目登録に反映させる。また、早期に進路ガイダンスを行い、進路に対する意識を高めさせる。 ○企画委員会を通して産社・総合の内容を組み直す。
3 基本的な生活習慣の確立	○遅刻・無断欠席など基本的な生活習慣に課題のある生徒もいる。 ○保護者や生徒会との連携が確実に取れつつある。	○「遅刻0の日」などの取り組みを通じてメリハリのある指導を行う。 ○保護者・生徒会との連携	○遅刻回数を前年比半減させる。 ○教職員・保護者・生徒会で、朝の声かけ運動を行う。年間100回以上実施する。	○朝起きる時間、勉強を始める時間、寝る時間の「3支点固定」の指導を徹底する。 ○遅刻回数掲示板を活用しながら、朝読書の取り組みとも連動させ生徒を啓発する。 ○保護者のふれあい運動や生徒会の声掛け運動ともタイアップして行う。	○2月末現在遅刻回数は前年比19.5%減だった。 ○生徒会・生活指導部は毎日朝の声掛け運動を行った。保護者も「ふれあい運動」として各中学校区ごとに挨拶運動を行った。またマナーアップ運動期間中は地区の方とタイアップして声掛け運動を行った。	B	○基本的な生活習慣の徹底を図り、引き続き遅刻回数の半減を目指す。 ○朝の声掛け運動を継続して行う。 ○PTA・生徒会との連携を頼密接に取る。
	○指導が浸透してきて、服装が乱れている生徒や規範意識の希薄な生徒の数が減少してきている。 ○正しい言葉遣いや挨拶がしっかりできない生徒も中にはいる。	○適切な挨拶、言葉遣いなど規範意識を身につけ、落ち着いた学びの場の形成に努める。 ○教員間で指導目標を共有し、毅然とした態度で指導に当たる。	○先語後礼を意識させる。 ○服装規程を徹底する。 ○学校全体として指導を統一し、粘り強く指導する。	○節度ある生活態度の育成を図る。 ○生徒との面談・保護者懇談等も利用し、粘り強く指導していく。 ○全職員が一致した組織的な指導を行う。	○学校内で挨拶をし合うことが定着してきた。 ○生徒に服装規程が浸透してきて、服装違反をする生徒が減ってきた。 ○各種会議などを通じて教員の意思統一を図った。	B	○教職員の方から声を掛けることを、折に触れて職員に周知する。 ○服装規程の徹底に引き続き取り組む。 ○生徒に対する指導を統一して、粘り強く指導する。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し
 [80%以上] [60%程度] [40%程度] [20%以下]